県立広島病院広報誌
もみじ
第30号
2011.8.1
発行
県立広島病院
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号
TEL(082)254-1818(代) FAX(082)253-8274
ホームページ http://www.hph.pref.hiroshima.jp/

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

暑い日々です。
病院を取り巻く木々の間からは、クマゼミの面々による大合唱が聞こえ、暑さが倍増します。
写真は、恒例の院内「七夕コンサート」の様子です。澄み切った音色で涼しい憩いの時間が流れていました。
写真からではありますが、皆さんもこの音色を感じてみてください。

副院長
木矢　克造

連携医院のご紹介

今回は、「医療はやっぱりチームワークです。」とおっしゃる大瀬戸リハビリ整形外科医院の大瀬戸先生です。

大瀬戸リハビリ整形外科医院

〒734-0015
広島市南区宇品御幸1丁目17-1
院　長／大瀬戸　政司
診療科／整形外科、
理学診療科など

○開業のきっかけは？

すべてのことに自分の目が行き届くようにして、一貫して患者さんの面倒を見るような医療をやりたいと思い、平成5年に開業しました。

○開業されて、印象深かったことは？

やはり、一人ですべてをまかなうことは難しいですね。有床診療所なので入院がありますが、当然、夜勤の看護師さんのお世話になりますし、リハビリとなると理学療法士や作業療法士の協力が欠かせない。スタッフとのチームワークというか、みんなの力がないと、とてもうまく回らないですね。

○診療の際に、大切にされていることは、何ですか？

患者さんの診断は、出来るだけ早くつけてあげたい。そういう思いもあって、開業当時からMRIを入れています。整形外科の患者さんには、MRIが効果的です。
内科的な患者さんは、まわりの開業医の皆さんにお世話になることもある。手術とかが必要な時は県病院に紹介したり、相談させていただいたりしています。

【取材後記】
スタッフとのチームワークの大事さについて語られていた大瀬戸先生。経験からにじみ出る、力強いお言葉でした。

外来診療のご案内

■診療受付時間
午前8時30分～午前11時00分
※午後の診察は科によって異なります。

■休診日
土曜日・日曜日・祝祭日
年末年始（12月29日～1月3日）

■紹介状持参のお願い
初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか2，620円のお支払が必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。

※当院では、予約診療を優先して診察しています。予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなることがありますので、ご了承ください。

ご案内

8月のがんサロン

■と　き／8月17日（水）
14：00から15：30まで
■ところ／新東棟2階　研修室
■内　容／県立広島病院がんサロン
■テーマ／「抗がん剤治療を受けるときに知っておきたいこと」
■対　象／当院に悪性腫瘍（がん）で通院または入院治療中の患者様およびご家族
■問い合わせ先／県立広島病院 地域連携科
TEL：082-256-3562（直通）

ワンポイント健康メモ①
― ご注意ください　熱中症 ―

熱中症は、油断して発見と治療が遅れると命にかかわる重大な病態です。特に夏場は注意が必要です。

起こり方の原因で分けると2種類あります。一つは**暑さの中で労働・訓練・スポーツなどを行っていて起こるタイプ**です。重症になってしまった患者さんや周囲の関係者に尋ねると、「現場の気温はそれほど高くなかった」とか、「たいしたトレーニング（労働）はしていない」といった過小評価をしてしまった場合が多く見受けられます。油断大敵です。暑いところで活動する場合は水分を十分に補給し、涼しい場所で早め早めに休憩することが予防策の鍵です。

もう一つのタイプは、**運動したわけでもなく、暑い屋内にいて起こってしまうタイプ**です。夏の暑い日に、特に高齢者や小児には起こりやすいので注意が必要です。エコも大切でしょうが、熱中症を予防するためには、エアコンの賢い使い方が必要です。

このようなエピソードのいずれかがあって、気分が悪い、吐き気がする、めまいを感じる、頭が痛いなどの症状が現れた時は、熱中症を疑いましょう。肉体労働・スポーツ・訓練などはただちに中止させ、涼しい場所へ移して衣服をゆるめましょう。体温がそれ以上上がらないように、水分を摂らせ、エアコンで室温を下げ、うちわや扇風機で扇ぎます。冷却シートや氷を使って、首筋やわきの下を冷やしましょう。飲ませる水分としては真水より塩分を含むものが適当であり、手近なものとしてはスポーツドリンクが良いでしょう。

ぐったりしたり、返答が鈍くなってきたら、無理に口から水分を飲ませず、迷わず119番で救急車を呼んで下さい。急速に重症化する場合や、他の重大な病気が隠れている場合もあるからです。

救命救急センター長　山野上　敬夫

診療科だより 第10回 子どもたちの味方 小児感覚器科

今回は、小児感覚器科の益田主任部長に直撃インタビュー！！

はじめに、「小児感覚器科」について教えてください。

益田主任部長

「小児感覚器科」をキーワードにして、ググってください（ググる、とはGoogle等を使ってインターネット検索をすることです）。最初に県立広島病院小児感覚器科が出てきます。どうしてでしょう。全国に例がないからです。

「小児感覚器科ってなに?」とよくきかれます。小児感覚器科はお子さんの聞こえとことばの発達を専門に扱う科です。ことばをしゃべるのに口を使いますから、ときどき食べることの相談も受けています。

「小児感覚器科」では、どんな治療をしているのですか？

患者さんの7割が学校に入るまでのちっちゃなお子さんです。小学生以下で区切ると全体の9割以上になります。

そのような小さなお子さんの「聞こえ」「ことば」「発音」に問題がありそうだった場合に当科で診察をさせてもらっています。さらに必要に応じてことばの練習を言語聴覚士が行うこともあります。

「小児感覚器科」のスタッフを紹介してください。

聞こえとことばを専門的に扱う言語聴覚士が3名います。仙台出身の新妻、福岡出身の山田、萩出身の田中・・・そう純粋な広島弁をしゃべることができるのは私だけです。たまにイントネーションや発音の解釈で意見が食い違うことがあります。ちなみに発音のテストに「泣いている」と言わせるカードがあるのですが、これは「なきよる」と言っても正解にしています。

また、最近予約が入りにくくなって皆さんにご迷惑をかけているのですが、そこを調整することを得意とする看護師の日野と事務員の玖島が、みなさんの電話にお答えしています。

ところで、益田先生の趣味は何ですか？

学生のころは卓球部とオーケストラという異色の組み合わせで二足のわらじを履いていました。今はどちらにも縁遠く、高校生のときに始めたコンピュータいじりが唯一残っている趣味でしょうか。

益田先生のモットーを教えてください。

基本的に「子どもたちの味方」であろうと思っています。時にはお母さんと一緒にその子をしかったりすることもありますが、圧倒的に子どもの弁護人になろうと考えています。「ちゃんとしゃべろうとしているんだけど言えない」「ちゃんと聴こうとしているのに聴くことができない」「一生懸命勉強しているのに漢字が覚えられない」、そういうお子さんばかりです。親御さんからすれば「どうして?」と理解できないことにもそれぞれに事情と理由があるはずです。それを理解することからまず始めよう、と思っています。

後列左から、玖島、山田、日野
前列左から、田中、益田、新妻

次回は、臨床研究検査科に直撃インタビューします。

とてもためになる 医療トピックス

～ 抗ウイルス治療で肝炎は制御できます ～

C型慢性肝炎に対してペグインターフェロン(週1回皮下注)およびリバビリン(毎日内服)併用治療が標準治療となっています。従来からインターフェロン治療には副作用の心配があり、今もそれが減少しているわけではありませんが、格段に成績が向上していることを強調したいと思います。実際、当院での治療成績は208例中137例66%がウイルス排除を達成しています。今後さらに治療法が開発され、今秋には新薬承認が予定され、将来的には内服薬数種類のみでウイルス排除が期待されるようです。C型慢性肝炎では自然にウイルスを排除することはなく、肝炎を反復・持続することで肝硬変へと進展し、肝癌を合併することもあります。インターフェロン治療によってウイルスが排除されるとそれ以上に進展することを阻止するだけでなく、数年を経過するとそれまでに蓄積していた肝線維化の程度が改善する症例が多いことが報告されています。

またB型慢性肝炎に対する核酸アナログ剤は、画期的な薬剤で適切に使用することによって肝炎を鎮静化させ維持することができます。当初の薬剤ラミブジンは耐性株出現の問題点がありましたが、その耐性株を抑制する次の薬剤アデフォビルも承認され、さらには耐性株の出現率の極めて低い第3薬エンテカビルが主流となっています。腹水を伴うような病状で核酸アナログ剤を開始した症例で肝炎が鎮静化し、それまでに使用していた内服薬や静注治療が不要になった経験があります。また肝炎が持続し、従来なら入院加療を考慮するような症例でも、核酸アナログ剤を使用することで外来通院を継続できています。

B型・C型肝炎ともに自分が陽性であるかどうかを、肝炎発症する前からあらかじめ知っておくことが重要です。もし陽性の場合には上記抗ウイルス治療の適応を判断し、適切な時期にお受けになることが可能になってきます。上記のごとくB型・C型ウイルス性肝炎は内科的治療で制御可能となっているので、まだ自分の肝炎ウイルス結果について知らない人はぜひ一度受診しませんか。またいずれかが陽性で専門外来を受診されていない人も一度受診をお願いいたします。

消化器内科　北本幹也

看護部だより お子様のやる気を応援します。小児感覚器科外来

お子様の「聞こえにくい」「ことばが遅い」「発音が悪い」といった不安や疑問に対し診療を行っています。ゆっくり時間をかけての診察が必要となるため、完全予約制となっています。

診察のほかに必要に応じて聴覚検査、発達検査、言語聴覚療法を行っています。また、耳鼻咽喉科・頭頸部外科と合同で、人工内耳埋め込み術などが行われています。

初めての場所で緊張してしまうお子様が多いので、本人のいつも通りの元気を引き出せるように、楽しい環境作りに取り組んでいます。検査や手術に対しては、ぬり絵やぬいぐるみを使ってわかりやすく説明を行い、お子様のやる気を大切にしています。

私たちスタッフは、これからもそれぞれのお子様とご家族が安心して診療を受けていただけるようにサポートしていきます。